

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570400236
法人名	有限会社 ひかり苑
事業所名	グループホーム ひかり苑日南
所在地	宮崎県日南市楠原字下耕整19番地 (電話) 0987-25-9494
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(20年 7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 9,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 600 円		

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	83 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛鍼会 山元病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飫肥城から近く酒谷川のほとりに位置し、古民家を改修した家庭的な雰囲気のあるホームである。1ユニットであるが定員は7名とゆったりとした構成で利用者にも心地よい環境である。理念として自主性・自己決定、やすらぎ、地域との交流を掲げ、自治会に加入し班長などの役割も経験し地域とのつながりもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回あがっていた家族への報告や運営に関する家族等意見の反映の取り組みは、運営推進会議に行政職や家族の参加を頂く事により、話し合いや相談の機会が増え課題に対して検討し対応できるように取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。今回新たに見出された課題もあり改善計画をたて解決可能なものから少しずつ取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回の頻度で行政職、包括支援センター職員、区長、民生委員、地域自治会の班長、家族の代表、ホーム管理者の参加のもとホームの取り組みや利用者の状態などの報告がなされている。行政職や地域の代表者の方が参加していただくことにより行政や地域との連携がスムーズに図れるようになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営会議での家族代表の意見や家族来訪時に直接意見や要望を聞いている。また意見箱の設置など新たに行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入し地域の連携につとめている。ホームの周囲も高齢化が進みホームを中心にコミュニティができるような期待もあり地域を取り込んだ利用者の交流についての取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を考え、わかりやすい独自の理念をつくりあげ取組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	朝の申し送りや日々の暮らしの中で話し合い理念の理解・共有につとめて実践の中に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や町内会の班長などの役割も経験しており地域とのつながりに取組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員で話し合い全員で自己評価に取組み少しずつ改善はされているが、具体的な改善計画をたてた取り組みは行われていない。	○	具体的な改善計画を立てて取組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行政職、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、町内会の班長、家族の代表、事業所職員など関連する様々な方の参加協力のもと運営推進会議を開催し会議での意見を参考にケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へ行政職や包括支援センター職員の参加により意見交換が活発に行えるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には声かけし利用者の状況を伝えるとともに、月1回請求書発行時には健康状態やホームでの生活ぶりなどを記録したものを同封し報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の参加があり意見を出せる場を設けている。また、参加できなかった家族には議事録を家族に送ったり、新たに意見箱の設置も行って運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職があった場合は利用者の対応の仕方や新しい職員への引継ぎ方など利用者への心理的負担にならないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の一環として研修の機会があり。研修会に参加した場合は報告書や資料など回覧して常に閲覧できる仕組みがある。また、自主的な研修会にも自由に参加できるよう勤務体制を調整している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西、県南ブロックの研修会を通じ意見交換を行ったり、先月連絡協議会が設立され、さらに同業者との交流の場を広げる活動に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前のお試し入所サービスの取り組みや、利用前に本人を含め家族の見学を行い本人・家族の意向を把握し徐々に雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのかかわりの中で、同じ目線で共に過ごし利用者から学ぶところや支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいかどのような暮らしを望んでいるか日々の生活を通じ本人本位に希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、ケアマネージャーを中心に職員間で話し合い利用者の立場に立った介護計画が作成されている。また、家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回定期的に行われている。計画の遂行状況・効果など申し送りや活動計画表を作成し、現状に即した対応が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院サービスや状況に応じて外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれが希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診時には情報など伝達できるよう同意のもと行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する家族の意向を十分聞き、事業所が対応できるケアについて説明し対応の検討を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応時はプライバシーを損ねないように十分配慮されており個人情報についても留意されて管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく本人のペースにあわせ希望に沿って支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけなどできる範囲で行っているが、職員と利用者は一緒に食卓を囲み食べることは行っていない。		利用者と職員は、一緒に食事ができるよう取組んでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯などは決めていないが、週3回、利用者のタイミングに合わせて入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力や特性を活かし家庭菜園で季節に合わせた野菜や果物作りをされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩など希望に沿った外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、門扉の施錠は行っておらず自由に入出りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回夜間の想定を含め防災訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分摂取の記録を作成している。嚥下や咀嚼の問題がある方には細かく刻んだりして食べやすい工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修した作りで家庭的な雰囲気があり、不快な音や光もなく安心して心地よく生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にはなじみのものが持ち込まれ、利用者のゆかりのある装飾などもあり居心地よく過ごせる工夫がなされている。		